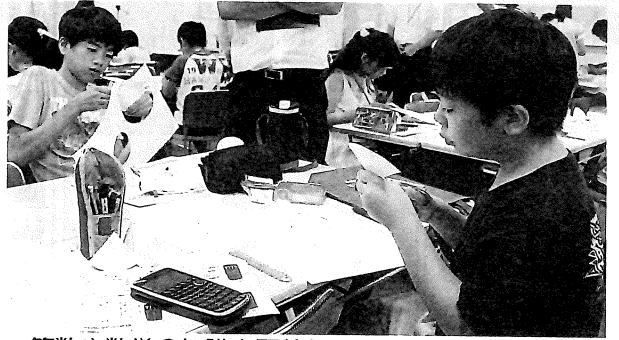


# 算数・数学使い立体作り

## 岐阜大で小中学生向け教室



算数や数学の知識を駆使し、紙の容器を作る参加者たち＝岐阜市の岐阜大サテライトキャンパスで

小六年の赤山樺音さん  
（こ）は「答えが全然わ  
からない問題を解くのが  
おもしろかった」と  
話した。（菅あかり）

図形の角度を測定したり、計算をしたりしながら、指示された形の立体を作る教室「数学的モデリングチャレンジ岐阜」が二十日、岐阜市吉野町の岐阜大サテライトキャンパスで開かれた。

算数、数学の楽しさを知ってもらおうと岐阜大が主催した。岐阜、愛知両県の小学五、六

年生と中学一年生の三十人が参加した。

課題は「半径七センチの扇形の紙で、容積八〇立方センチの円すい形の容器を作る」。岐阜大教育学部の河崎哲嗣准教授（数学教育）が講師を務めた。参加者は、何度も容器を作り直しては容積を確認するなど、試行錯誤した。岐阜大教育学部付属